

特集2

金城学院のセーラー服は



2021年9月に制服制定100

日本で最初にセーラー服を制服として採用

セーラー服が金城学院の制服として制定されたのは1921年9月のことです。現在でも一番多く着られている上下セパレート型のセーラー服ですが、実はこれが「セーラー服を学校の制服に採用した日本における歴史の始まり」であったことが、2018年に日本大学の刑部芳則准教授の学術論文※によって明らかにされました。日本近代史の研究者であり、「帝国日本の大礼服」などの著書がある刑部准教授は、全国にある何百校もの学校史や資料を丹念に調査・分析。その結果、これまでの定説であった平安女学院や福岡女学院ではなく、セーラー服を制服に採用した起源は金城学院であったことがわかりました。

※日本大学商学部の学術雑誌「総合文化研究」に掲載された論文『ミッション系高等女学校の制服洋装化』（2018年刊）

セーラー服は金城学院のアイデンティティ

金城学院のアルバムを紐解いて時代をさかのぼると、明治の初め、生徒たちは着物で登校していました。1919年には木綿服の白襟に鮮やかな青藍色の袴という和服の制服が制定されました。そのハイセンスなスタイルは「バイブルガール」と呼ばれ、羨望のまなざしが注がれました。その後、1920年に「作れる人は洋服にするように、型は自由」と洋服での通学が推奨されると、セーラー服を着る生徒



1921年4月の集合写真。セーラー服と、着物に袴姿の生徒が混在しています。

が現れ始めました。生徒たちが参考にしたのは、アメリカ人宣教師、ローガン先生の娘が着ていたセーラー服です。デザインが美しく、軽やかで動きやすいセーラー服は、まだまだ洋服を着る日本人が少ない時代の、新しい一歩でした。1921年9月、



ローガン夫妻と娘たち。

校長の市村與市はこのセーラー服を制服として制定しました。その後、日本は日中戦争に突入（1937年）し、「おしゃれはぜいたく」とされ、セーラー服の襟の白線は3本から2本、そして1本へと減っていき、袖口と胸当てからは白線自体が消えました。さらに1941年の大東亜戦争に入るとスカートの着用が禁止に。そんな窮屈な時代の中でも、生徒の多くが、姉や先輩から譲り受けたセーラー服の上着を身に付けました。戦時下の自由への圧力に屈することなく、強い精神を持って、セーラー服に宿る「金城学院のアイデンティティ」を守り抜いたのです。

受け継がれた伝統と誇りを未来へつなぐ

生徒たちが再びセーラー服を着られるようになったのは、1945年の終戦後しばらくしてからでした。1947年に公布された新学制を受けて、1948年に金城学院中学校および金城学院高等学校が誕生しました。制服については、戦前は自由だったネクタイの色、そして襟と袖の白線についても1本と定められました。戦火の中でも懸命に生きた金城学院の歴史を記憶にとどめ、今ある平和な社会に感謝する心を持ち続けたいという思いが、一本の白線にこめられたのです。折しも今年ではセーラー服を制服に制定してから100周年の年です。タックの入れ方やネクタイの結び方など、その時代その時代で多少の変化はあるものの、凛として清らかな印象は今も変わりません。代々の卒業生が大切に着続け、守り育ててきた金城学院の伝統と金城生としての誇りが、次の世代につながっていきます。

KINJO INFORMATION



金城学院

公式アプリ

Kinjo Gakuin Official App

アプリでさまざまな情報をお届けします！

金城学院大学の学生だけでなく、金城学院の卒業生のみならずもご利用いただけるアプリです。金城学院大学の学生に向けては学生生活に役立つ様々なコンテンツ、卒業生に向けてはさまざまなサポート情報やお知らせなどをお届けします。

カメラやコードリーダー搭載のアプリを起動して、以下の二次バーコードから、もしくは、各ストアから検索してダウンロードしてください。



金城学院



アプリのダウンロードはこちらから！

周年を迎えます

サイトにて「金城学院
セーラー服の物語」を
ご覧いただけます。



セーラー服姿の生徒たち(1921年)。左から1人目と3人目の生徒が草履を履いており、まだ洋服を着慣れていない様子がわかります。紺地で、襟と胸当てには白線2本、袖には上下2本ずつ計4本の白線。



復元した日本最古のセーラー服を身につけ、1921年当時の生徒と同じポーズで整列した現在の生徒たち(2019年)。

制服復元プロジェクト

金城学院創立130周年記念事業として、
1921年当時のセーラー服を再現。



復元にあたっては、日本毛織株式会社
の協力を得て、当時の生地と色を再現。縫製
は株式会社明石スクールユニフォーム
カンパニーの協力を得て、当時の足踏み
ミシンを取り寄せ、当時の技術を考慮し
ながら一年がかりで完成させました。

+

金城学院制服制定
100周年記念

金城学院限定

カフェタナカクッキー缶

1963年創業の「カフェタナカ」は、伝統的なカフェメニューはもちろん、2代目でシェフパティシエの田中千尋さんが手がけるスイーツが人気のお店。中でも1枚1枚手作りして丹念に焼き上げたクッキー「レガル・ド・チヒロ」シリーズは発売されるたびに即完売となる大人気商品。今回は金城学院の制服制定100周年を記念して、限定クッキー缶を販売。長屋頼子校長自らが製作に携わり、話し合いを重ねて生まれた、カフェタナカと金城学院のコラボ商品です。



右から長屋校長、オーナーパティシエの田中千尋さん、取締役の田中千寿さん。

千尋さん、千寿さんは揃って金城学院の出身、しかも2人とも長屋校長の教え子という、深い縁で結ばれた3人の、コラボ商品の企画会議の様子。



セーラー服の
紺をイメージして
作られた、金城
オリジナル缶。

理想のショコラを求め、現地の女性支援も目的にスタートしたカフェタナカ自社農園のあるアフリカ ギニア湾に浮かぶサントメ島のカカオも贅沢に使用されています。

内容：ビスキュイ・ブール・カフェショコラ、ビスキュイ・ブール・アマンド、ビスキュイ・ブール・ショコラサントメ 各10枚

価格 / 3,500円(税込 3,850円) 限定720缶

ご注文は下記「金城学院オンラインストア」にて

※720缶をご用意できました。お一人様2缶までご注文いただけます。
ご注文の期間は7月12日(月)から8月11日(水)まで。
商品の発送は9月中旬です。

金城学院オリジナルグッズ 新商品のご紹介

金城学院オリジナル
フェイラーハンカチ



オリジナル冷感ペアグラス



オリジナル
ジュエリー



※7月下旬販売開始予定

2021 オリジナル
マスキングテープ

オリジナル
付箋



オリジナル
ワイヤレス充電器



金城学院
オンラインストア

商品の詳細情報や
ご注文はこちらから



<https://kinjo-gakuin.com/>